

アトリエ 琉游舎 だより 20号

2018年2月7日発行

アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/

琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>

写経会

毎月第1日曜日と第1火曜日 13時半から

- ☆写経会を毎月第1日曜と第1火曜の13時半から定例で開催します
- ☆道具は全てご用意いたします。お持ちであれば小筆だけお持ちください
- ☆法華経寿量品自我偈をまずはなぞり書き用紙で写経しましょう

春の彼岸会法要

3月21日春分の日 10時から

19	20	21	22 映画会 13:30	23	24 先負	25
26	27 読書会 13:30	28	3月1日 映画会 13:30	2	3	4 写経会 13:30
5	6 写経会 13:30	7	8 映画会 13:30	9	10	11
12	13 読書会 13:30	14	15 映画会 13:30	16	17 詩話会 13:30	18
19	20	21 彼岸会法要 10:00	22 映画会 13:30	23	24	25

2月の詩話会はお休みです

次回読書会
2月27日(火)
13時半から

映画会
毎週木曜日
13時半から

2/22 木	13時半	ダウタウンヒーローズ (120分)	山田洋二監督、薬師丸ひろ子、中村橋之助主演。昭和23年最後の旧制高校生たちの輝ける自由と未来の日々。城下町松山を舞台にした青春映画。
3/1 木	13時半	桑港 (115分)	クラークゲーブル主演。サンフランシスコを舞台に展開する街の顔役と歌姫の真実のラブストーリー。1936年のアメリカ映画。
3/8 木	13時半	虹をつかむ男 (120分)	山田洋次監督、西田敏行、田中裕子主演。渥美清に捧げられた一本。徳島の古びた映画館を舞台に映画に情熱を注ぐ男の人間模様を描く。
3/15 木	13時半	自転車泥棒 (88分)	ヴィットリオ・デ・シーカ監督で数々の映画賞に輝いたイタリアンリアリズムの名作。図らずも自転車泥棒を働いてしまった貧しい家族の物語。

狂言綺語・・・願い誓い行う

節分を過ぎたら夜明けが急に早くなってきました。まだ吹く風は冷たいのですが、日ざしが少し柔らかくなってきたような気がします。鳥の鳴き声が心なしか華やぎ、草木の小さな芽吹きが少しずつ風景を色づかせているようです。ずっとこのまま冬の方が良いなどという人はいないと思いますが、私たちが春を作り出しているわけでもないのに春は間違いなくやって来ます。私たちには春を作る力はありませんが、春を願う気持ちはあるからなのでしょう。

「不求自得」という言葉があります。この言葉が語られる仏教の文脈は「求めずして自ずから得られる利益（りやく）」と言うことです。「利益」はいろいろな解釈ができます。たとえば仏さまの真実の教えだったり、信心によって得られる不思議な奇跡体験であったり、それこそ宝くじに当たったりするような現世利益だったり。これと全く正反対のような言葉に「求不得苦」があります。これは四苦八苦の一つで「求めているものが得られないことから生じる苦しみ」を言います。求めないことで手に入るものがあるかと思えば、求めれば手に入らず逆にそれが苦しみとなると言われ、こんがらがってしまいます。私たちは「求めるべきなのか？」「求めざるべきなのか？」

「求めよ、さらば与えられん」有名な聖書の言葉ですね。この教えは私には「神に祈り求めなさい。そうすれば神は正しい信仰を与えてくださるだろう、そして物事の成就是祈り求める正しい信仰によってかなえられるだろう」という教えに聞こえます。ところが「不求自得」は「求めるな、さらば与えられん」というように私には聞こえてしまうのです。本来ならこの言葉が説かれた文脈に沿って解釈すべきなので少しだけ原典を引きます。法華経信解品に「無上宝聚不求自得」という一節があります。「無上宝聚」は仏さまの真の教えのことです。「この上もない真の教えは求めるのではなく、自ずから得られるものである」と説かれているのです。さあ分からなくなってきました。なにもしないこと、計らないことによって仏さまの真実の教えを得られるとしたら、人には努力とか希望とか頑張るとか言う言葉は必要なくなってきました。その点キリスト教の世界はとても分かり易いですね。「求めたら与える」と言うことは「求めないとあげない」と言うことです。そこには絶対者は求めるものには等しく与えるが、その等しくは祈り求める側にも等しく求められているものがあるようです。裏返すとそこには努力と信仰の強さが要求されているのです。絶対者への帰依を前提とし、理性と論理によって自己と他者を厳しく峻別する二元論の考え方です。現在の世の中を形作っている西洋的合理主義、資本主義の土台となる世界観です。

キリスト教で言う「求める」は絶対者と人が向き合って「求める↔与える」という相互の関係性の中で語られる言葉のようです。ところが仏教で言う「求める」は仏さまと人が向きあっているのではなく、仏さまも人も同じ方向を向いて求めているような気がするのです。その同じ方向を向いている先にあるものは悟りの世界であり、やすらぎのところなのです。仏さまは私たちの導師です。やすらぎのところへ導いてくださる船長さんです。天上のどこかにいて「私を求めなさい。さらば私はあなたにそれを与えよう」と言う絶対者ではなく、私たちの傍らにいて一緒になって歩き見守ってくれる同行者の隊長です。仏さまの照らす真理の光（法灯明）注1と、自らの信心の強さが照らす足下の光（自灯明）注2を頼りに歩む私たちの「行い」を、ときには一歩先に立って頑張れと叱咤激励をし、あるいは後ろからへこたれるなど背中を押し、あるいは傍らにいて教えを楽しく語り授けながら、私たちの歩みに寄り添いサポートしてくれる慈悲深い両親なのです。

「不求」は自分の計らいによる何かを求めないと言うこと。自分の考える悟りやもののありのままの姿は果たして仏さまの考える悟りでありありのままの姿であるかどうか、これは仏さまだけが知っていることです。だから私たちは自分が計らったものを求めてはいけません。それは間違っただけのものを探しているからであり、真理ではないものを求めても、もとより与えられるはずもなく、その結果求めたものが得られないことに苦しんでしまうのです。これが「求不得苦」。逆に正しい教えは仏さまとともに「行い」歩んでいけば求めずとも自ずから得ることができます。これが「不求自得」。

「不求」はあくまでも我見によって何かを求めるなど言うことです。「衆生無辺誓願度」という四弘誓願の一節をきいたことがあると思います。これはすべての人を悟らせようという仏さまの誓いです。仏さまの誓いは私たちの願いそのものです。私たちが求めるべきことは欲求でなく「願い」です。他の求めは我欲による欲望です。だからそれは求めても与えられるわけもなく苦しみだけが残るだけなのです。「願う」ことは「誓う」こと「誓う」ことは「行う」こと。

私たちが「願う」ことによって与えられるものは日々のかげがえのない日常の「行い」なのでしょう。それではまた次号でお会いしましょう（出流）

琉游舎：戸井 出流・恭子

お問い合わせ先：0287-53-7848 08033508152

矢板市大槻2319-17コリーナ矢板C-850

アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/

琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>